

と思っております。

(幼稚園教諭・東京)

私たちの職員室

上山 幸子

私は、このごろ職員室は珍らしくもないし、日常はあまり関心もない室となったのですが、きょうは静かに眺めてみることにいたしました。

○ 私たち教職に繋がるものはだれかれの差別なく、はじめて社会にでて、幼稚園という職場に赴任して、いちおう最初に腰かけるところは、職員室という名のある部屋でありましょう。

○ ここに集る先生方は、相互の信頼と友愛によって、和というありがたい雰囲気の中、生活しているのであります。そして楽しい環境で、自分たちの仕事に努力感謝して、希望に明け暮れているのでございます。

○ ここでは、会議、協議、討論、懇談それに休養するのがこの職員室です。現状ではたいの幼稚園が、なにかも一つでまに合せている室を、職員室と名づけているようです。

○ 私たちはこの青春を一つの教育にささげて努力しております。人

生の最も活動期の生活であり、睡眠と休養の時間をはぶくと、大部分は幼稚園で暮らすことになっております。

そして一日の生活中、幼児とともにある時間は最も精力を傾注する時間であって、この職員室にもどってきての時間は、保育のありかたや反省あるいは事務のことなど考えたり書いたりしますが、また、いこいのためのオアシスでもあるのです。

○ この職員室こそ私たちの生活には、たいへんに重要な意義を持つところであると思います。

○ そこで職員室の空気というものを、私たちが住みよいものにしなればならないと思います。それには私たちがおたがいに謙虚な気持ちで、和を造ることです。もっと明るいものにし、ここで働く私たちの心に、希望をおたがいがもつことです。

○ この和というものは、実際にたいせつなしかも根本的な問題であって、私たちは各自の活動を最大限に發揮して、人にはけつして妨げをしないという一つの線を堅く守ることです。これが和になる条件であろうし、精神でもあると私は考えているのでございます。

○ 先生たちおたがいは、いろいろな性格があります。この先生たちが姉妹のようなきもちでつきあっている、おたがいに許しあっていることが根本であろうと思えます。

○ 自分の性格に合わないからといって、けぎらいするのはまちがいであります。

○ ある人が「山にはいろいろな色の木の葉がまぎっているので美しいのです。一つの集りにも種々の個性があつてこそ強い力になるの

です。このように聴きましたが、これは味わうべきことばだと思
います。

○ ここになんのへだてもなく、私事について語りあって、なんの秘
密のない生活、これこそ大きな喜びであらうと思います。

私は朝に夕に「お早ようございます。」「さようなら。」の挨拶が、
明るく大きく響くことが楽しいのです。

○ この職員室にある先生たちは、いつも園児のことで頭がいっぱい
になっていられると思います。だからかなり疲労もあらうがけつし
て悲鳴をあげないし、たまたま帰園がおそくなくても超然としてい
るのです。私などあくびをかみしめたり、帰園を急いだりすること
があつてはずかしいことだと思つうのです。

それに、みんなが明るくみだしなみがよく幼児に接する心がまえ
がなかなかよいのです。

○ つまらない雑感ですが、こんな平凡なことが、あんがいたいせつ
なことではないでしょうか。

私は職員室の生活を楽しみ、問題があれば職員室にきて解決し、
楽しみも苦しみも先生たちみんなでわかちあうようにありたいと思
うのでございます。

この精神からきつと英気がうまれ、教育への道が歩まれて、幼
子どもたちの双葉の芽をのぼすことができるのではないでし
ょうか。
(幼稚園教諭・東京)

私 の 宿 題

穴井曜子

「おいらの部屋だよ、おいらの部屋だよ。」ひょうきん者のMちゃん
は、おどけた身振りで部屋中を踊り歩きました。この二期期になつ
てはじめて、子どもたちと私は、おちついた保育室をいただいたか
らです。ほんとうは私だつて一しよにうかれたくなるくらい嬉しい
のです。

この四月に入園した一年保育の二組は、保育室がないのでずっと
ホールを共有してきました。あまり大きくないホールなので、つい
立でしぎった半分をお互に一杯に使うことになるのでついおとなり
をのぞきたくなります。

何をしてもおとなりで歌いだせば、せめて一しよに歌うより
他ありません。ついたてのかけからお手洗にいく子がぞろぞろやっ
て来れば、こちらもそういたします。それに毎朝全園で礼拝その他
に使うホールは、何となく自分たちの部屋という感じがしません。

全然コントロールされていない、ありあまる精力を内に秘めたま
ま雑然とした環境におかれた一年保育児はこうしてだんだんおちつ
かない子どもになってきたようです。みんなの迷惑になるからとい
うので、毎朝数人の子が出されますが、それはいつでも、きまつて
この一年保育の男児です。何とか少しおちつかせるようにというの
で、とくに手に負えない私の組が、二年保育年少組とお部屋をとり